



# 町民文芸

## 短歌

夕暮れの川の辺に竿を持ち

魚釣る人や影絵のごとし

北野津 宮本 末秋

不知火の藍より出でし空の青

ひろごりゆくや天草の灘

北野津 井田 道寛

梅雨半ば曾孫生まれて男の子

青空高く幟立てたし

西野津 古崎スエノ

若き甥の供養偲ふ窓西日

次ぎく浮かべる今日の秋

西野津 古崎 栄子

梅雨晴れの声を競いて蝉しぐれ

空の青さも色濃くなりて

南鹿野 尾崎 京子

街中をトコトコ歩む子狸の

我見てトコトコ草むらへ逸る

西上宮 村内 一誠

一本のペンで闘う女ありて

不知火の海永遠に澄みたり

吉本 高瀬 道昭

午後三時見上げし夏の四方の雲

電神の如荒鷲の如

吉本 高橋 澄子

天仰ぎ心の灯り探せども

梅雨空明ず絹の空落ち

上鹿島 前村 俊子

## 俳句

寄り添うて抜け殻二つ蝉の声

北野津 宮本 末秋

菊の日の風さやかなる遠出かな

北野津 井田 道寛

忘れぬ真夏の空に木の子雲

西野津 古崎スエノ

紫陽花の葉影につれられ蝸牛

南鹿野 尾崎 京子

指のさき朝顔の数かぞえつ、

町 香山菊童子

秋暑し岸辺めがけて草の蔓

西野津 古崎 栄子

外出の身仕度急かす蝉時雨

吉本 高橋 澄子

ノコギリ草一面鮮やかはなやぎぬ

西上宮 村内 一誠

蝉時雨私の起床を決める日々

上鹿島 前村 俊子

## 詩

甲子園 熱気溢れて 汗も暑さも

吹き飛ばす 頑張れ 頑張れ

高校球児

東上宮 H, O

### 投稿について

・ 楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふつて投稿してください。  
・ 内容確認する場合がありますので電話番号を明記してください。  
・ 毎月8日必着

※掲載は1人あたり短歌・俳句・詩のそれぞれ一句ずつとなります。  
※遅れて投稿された場合掲載できない場合があります。あらかじめご了承ください。

投稿先  
〒869-4814 氷川町島地642番地  
企画財政課 企画係 ☎52-58550

### 漱石と家族と「漱石山房の人々」

法道寺 本田 花風

タイトルに戻る。「山房」とくれば漱石門下の文士たちが、彼らの文学論や作品論を丁々発止と文学論を戦い合わす溜まり場と即、思っていた。しかし、それもあが、あたかも林原の人生劇場そのもので、鏡子夫人や漱石一家との家族との関係が詳細に書かれている。文豪たちの時代と言わずとも、つい一昔までは便りといえはたが手紙であった。三島由紀夫と川端の往復書簡のように記録が後に公開され当時を知ることになる。

漱石や鏡子夫人からの耕三氏への手紙がこの書簡で多く記載されており、貴重な書簡である。昨今、この書籍を巷で手に入れることはほぼ困難でありレアなるものです。

私(林原)が二高の三年生の時である。二年生の終頃北海道にいた父が事業に失敗して学費が途絶えてしまひ、それまで人並みよりは豊富に貰つてゐて、やや贅沢な生活だったのが、俄かにさうい

うことになったので、さる育英会から月々若干の補助を受け、漱石先生の著書が出る度に校正をして校正料を貰ひ、それで足らぬ分は下宿の借金になつてゐた。

丁度その頃から右手の書癩に悩んでゐた私は講義のノートも取れないで、学校も大方サボつてゐた。

その頃のことである。山房の客間に先生と奥さんが私と三人であたとき、奥さんが私に、「あんた、体も丈夫でないのに、そんな無理して、学校へも出ないでゐるなんてつまらないでせう、うちの子に貰つてあげるわよ」と言い出された。そして先生の方をチラと見られた。別に先生の意向をさぐるというやうな風ではなく、さういふ場合の自然な仕草である。すると先生は、「突然こんな大きな息子が出来たら、薄気味がわるかるうな」と穏やかな調子で言はれた。坊ちゃんたちは二人ともまだ小学校へも上がつてゐられない幼なさであつた。迂闊なことに、それが長女の筆子さんのフィアンセになることだとはいきなり思い至らず、ただただ先生の養子として先生の名を辱める恐れを感ずるのみであつた。《中略》次女の恒子さんがお母さんのところへやつて来てはしつこく、かう訊くのである。「お姉さまと岡田(林原の旧姓)さんと、十二も違つていいの?」「うるさいね、子供の知つたことぢやないの、あつちへ行つてらっしゃい」(物忘れのはげしい私がいまだに筆子さんとの歳の差が十二だと憶えてゐるのは、この時の恒子さんの、その反復の質問によつて与えられた印銘によるものである)

# 立神峡だより

## 今年もカブトムシをプレゼント

夏休みにはたくさんの観光客が涼を求めて来ましたが、夏の目玉はカブトムシ捕り。子どもたちは、朝早くに起きて目を輝かしながらカブトムシ捕りに向かいます。宿泊した子どもたちには今年もカブトムシをプレゼントしました。

その中でも、カナダのカルガリーから里帰りに来た親子が心に残りました。カブトムシをプレゼントした際、子どもたちはカブトムシのことは知っていましたが、見たり触るのは初めてとあって異常なほどの興奮ぶり。カルガリーはとても寒くてゴキブリなどもないとのことで、うらやましい限りです。

今年も多くの子どもたちにカブトムシを通じて感動と喜びを与えることが出来ました。来年はより多くの子どもたちにプレゼントできるように創意を凝らして準備したいと思います。



## 立神峡に新しい看板を作成

公園へは東陽町を通ってきますが、その入り口に新しく看板を設置しました。楽しみに来てくれる宿泊客のために最も目につく場所に設置し、歓迎の気持ちを表すためです。以前はラミネートで作成していましたが、古くなり破れてきたので頑丈なものに作り直しました。必要最小限の予算で最大限の効果を上げる事をモットーにやっています。



## 今年も宿泊通学の季節がやって来ました

竜北東小を皮切りに宮原小と竜北西部小が8月から10月の間に2泊3日を過ごします。家族から離れて生活することで家族の一員としての家庭での役割や、自主性・自律性・協調性を培いクラスの仲間として絆を養います。

今年は、どんな子どもたちがやってくるのか楽しみです。氷川っ子は地域の宝です。この宿泊通学で学んだことが今後の人生に役立つようにしっかりとしたカリキュラムを準備中です。



## 氷川町子ども会ジュニアリーダーデイキャンプ

8月4日(日)に氷川町子ども会のジュニアリーダーがデイキャンプを行いました。これは氷川町の中学生・高校生が自ら企画・運営したもので、立神峡のような場所で遊ぶ際に危険な箇所、行為などを考える危険予知トレーニングを行ったり、自分たちで竹を切り、箸などを作って流しそうめんを行いました。薪を燃やして水を沸かすのが予想以上に苦戦しましたが、最後にはちゃんと茹でたそうめんを流すことができ、中学生たちも喜んでいました。

